

ありまふじ里山だより

Vol.21

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol.21は里守の会の活動の様子と早春の花の様子についてお届けします。



里守の会、活動日！

かやぶき民家の横に広がる5段の棚田では、もち米や古代米づくり、レンコンづくりがおこなわれています。その一方で、山に近い上段2段は耕作放棄地となっており、セイタカアワダチソウやササが生い茂っている状態です。ここを整備して、畑に蘇らせようと今年から新たな取り組みを始めています。

まずは鎌を片手に、背丈ほどもある草やササを刈り進んでいきます。お昼をはさみ1日作業して、1段はほぼ刈り終わりました。刈り取った草を積み上げた山は10個ほどにもなり、相当な量です。地表の草を刈ると、過去に使っていた時の畝の跡がわずかに確認できるようになりました。

畑として使えるためには、刈った草の処理や土おこしなど、開墾作業はまだまだ続きます。

早春の気配

かやぶき民家の庭先では、梅の花が咲き、早春の気配を感じさせてくれます。田んぼの畔や園路沿いには、枯れ草の間からオオイヌノフグリが青い花を咲かせています。少しずつ、でも確実に春が近づいていることを感じます。